



## 令和2年度の映画会についてのお知らせ

私達のNPO法人「輝け酒々井まちづくり研究会」は、町民の方々が地域に関心を持ち楽しく、住み良い酒々井町をつくるため活動を行っている団体です。

このことから、町民の皆様が出会い、心を通わせ絆をつくる機会を提供するため、音楽会や駅フェス、映画会の開催などを定期的に行っています。

映画会において私達がこれまでに上映致しました映画は、漁村の女性達がまちおこしをする「女たちの都」から始まり、定年退職をした町民が中心となり、盆踊りを通して地域を活性化させる「ホームカミング」等、町民の一人ひとりが楽しく生き甲斐を持って社会貢献を行うことで住みよい町が生まれ、顔見知りになることで素晴らしいコミュニティが生まれる映画を上映してまいりました。

また、昨年は、高齢者夫婦の絆の在り方とこれを支える子供の思い、行政との関わりなどを信友（のぶとも）監督自身が両親を撮影したドキュメンタリー映画「ぼけますから」を上映し大勢の町民の方々にご参加頂きました。

今年度も恒例となりました第7回「無料映画の上映会」を6月に開催すべく鋭意計画を進めておりましたが、皆様ご承知の通り、新型コロナウイルス感染症が日本のみならず世界的に蔓延し、酒々井町においても多くの行事が中止になっています。このような状況下、今後の動向によっては中止または時期を大幅に延期することに成るかも知れません。その時は、私達の広報紙シスイッチ等でお知らせ致しますのでご了承下さい。



(平成26年度上映)



(平成28年度上映)



(令和元年度上映)

JR酒々井駅交流スポットは、3月から休止していますが、4月以降も開設を見合わせています。

## 「喜兵衛号」で出前交流スポット [ネオポリス自治会] へ

助成金を活用して購入した軽自動車「喜兵衛号」が1月19日(日)に馬橋地区のネオポリスに出向いて出前交流スポットを開設しました。

真冬とは思えない程の暖かい日差しの下、大勢のネオポリス住民の方々が参加され、「喜兵衛号」が提供するドリップしたばかりの美味しいコーヒーのサービス等で交流を深めて頂きました。また、自治会からはとても美味しく、体温まる豚汁が提供されました。

「喜兵衛号」の周りに集まった子供たちには、絵本の立ち読みやお菓子のサービスも行い、楽しい触れ合いの場となりました。

自治会館内では、ネオポリス自治会による新年会が行われており、余興として上演された落語で大いに盛り上がっていた様子が印象的でした。

この先、「喜兵衛号」の機動性を発揮して、各地域に出向いて、交流の場づくりを続けて行きたいと思えます。引き続き、「喜兵衛号」の活躍にご期待ください。



最後に、ネオポリス後藤自治会長からのお礼の言葉を紹介します。「1月19日の出前交流スポットの開設では、NPO法人輝け酒々井まちづくり研究会のスタッフの皆さんには早朝から準備をして頂き、感謝申し上げます。当日は、自治会員の多くが参加し、楽しいひと時を過ごすことが出来ました。また、このような催しを企画して欲しいとの要望がありますので、今後とも宜しくお願い致します。」



## 音楽会 (ミレカルテット) は、開催延期になりました。

3月22日(日)に開催を予定していました令和元年度の音楽会は、新型コロナウイルス (Covid-19) 感染拡大防止の観点から、開催を延期する事と致しました。演奏を楽しみにされていた皆様には、誠に申し訳なく思っております。開催の時期につきましては、諸般の事情から、来年の3月を予定しておりますが、詳細が決まり次第皆様にお知らせしますので、ご来場のほどよろしくお願ひいたします。

なお、チケットの払い戻しが未了の方は、チケットに記載の電話番号までお問い合わせください。

## 墨古沢遺跡 (すみふるさわいせき)

墨古沢遺跡は今から3万4000年前の旧石器時代の「環状ブロック群」(環状をなす集落跡)で、昨年、国の史跡に登録されました。

日本に人類が住み始めてまだ狩猟と採集の時代に南北70m 東西60mに及び日本最大規模の集落跡が酒々井町に発見され、狩猟に使うナイフ形石器、台形様石器、削器や石錐などが大量に出土し、当時の生活の様子が推測されます。石器の石材は広く北関東や信州や神津島からもたらされているガラス質黒色安山岩、黒曜石、メノウ、硬質頁岩などで旧石器時代の人々の移動範囲やルートが明らかになるかもしれません。墨古沢遺跡の人口は推定100~150人で、当時は日本全体で3000人程度とされており、現代であれば大都会であったと思われます。

この環状ブロック群の発見のきっかけは、平成11、12年度に酒々井パーキングエリアの拡張工事に伴い行われた発掘調査によるもので、酒々井町では遺跡の保存及び活用を目指してその規模や形状、遺存状況を確認するため、平成27年度から3年間かけて調査を実施しました。そして昨年、これまでの発掘調査成果や分析・研究成果より遺跡の重要性が認められて 国の史跡に指定されることが決まりました。町としても環境を活かして保存活用に取り組み 歴史公園として整備をしていく考えであります。



狩猟用と考えられる台形様石器  
(墨古沢遺跡出土) 酒々井町教委 委員会蔵

現在 遺跡は埋め戻されて大部分が農地となって遺跡を見ることはできませんが、発掘調査で出土した石器の一部は酒々井コミュニティプラザで常設展示しておりますので 是非一度訪れて「日本人のふるさと」ともなる悠久の歴史に触れてみてはいかがでしょうか。



## 自治会紹介 その5 上本佐倉一丁目自治会

国道51号線の南、南側はJR成田線、東側は県道酒々井・八街線に挟まれる一帯が上本佐倉一丁目と呼ばれる地区である。

昭和40年代後半に防衛庁(現在の防衛省)共済組合が組合員向けに宅地造成し、昭和50年頃から入居が始まった団地であり、通称「防衛庁(省)団地」と呼ばれている。

自治会には115世帯(令和2年3月末現在)が加入し、地区別に6班に分けられ、会長、副会長(所属する班の班長を兼ねる)、監事及び各班長5名の計8名で運営されている。なお、各班長は、班内の対応だけでなく、自治会業務も分担している。

各役員は1年任期で、規約に定める「役員選出輪番表」に基づいて選出されている。次に述べる高齢化もあり、選出にあたって難航することもあるが、共助の精神でカバーしている。

当自治会の特性として、会員の高齢化率(65歳以上の高齢者の占める割合)が町全体の31%に対して54%という極めて高い率であることが挙げられる。

また、生活上必要とされる、スーパー、病院、JR・京成線の各駅が徒歩圏内に無くて、車に頼わざるを得ない状況にある。このため、殆どの世帯で免許証の返納を迫られている高齢者が運転せざるを得ない実情になっている。

住民の高齢化への対応、自治会離れの防止等、目の前に課題山積だが、出身母体と同じであることから生まれる纏まりの良さで、各種会合・イベントの出席率が高い等、自治会の活力が維持されており、新しい時代の「令和」の自治会への発展が期待される。



上本佐倉1丁目コミュニティセンター

## 編集後記

新型コロナウイルスの影響で、いろいろな活動が中止されたり制限されたりで、明るいニュースのない3月、4月でしたが、盛大な花見こそできませんでしたが、今年は、上岩橋の京成線沿いの河津桜が見事に咲いたり、気温の関係かソメイヨシノの桜が開花から結構長期間楽しめたような気がします。

コロナウイルス感染の拡大防止に関連した日常活動に対する制限等は、5、6、7月とさらに厳しくなることも予想されますが、制限が解除されたらすぐに通常の活動が開始できるよう準備しておくことも大切だと思います。

とにかく、三つの「密」を避け、健康に留意し頑張りぬきましょう。



西井戸入口の山桜